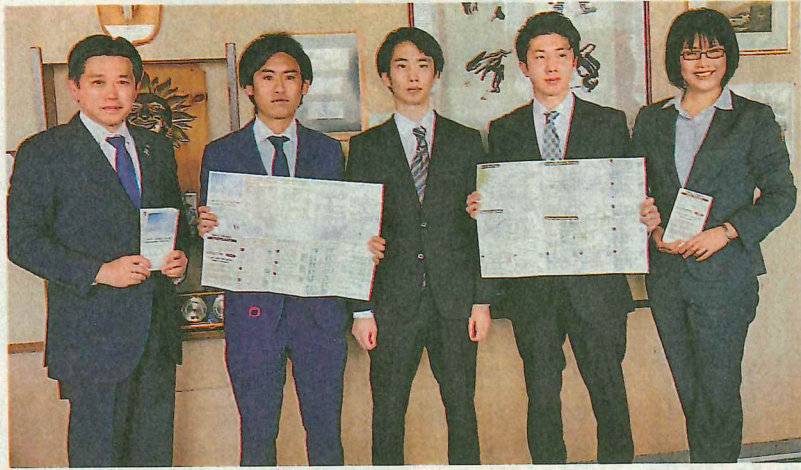


英語でニセコ医療マップ

樽商大生が作製 2町に寄贈



【倶知安、ニセコ】小樽商大の佐々木香織准教授(社会学)とゼミの学生たちが11日、倶知安町とニセコ町の各役場を訪れ、ニセコ地域の外国人観光客用に

西江栄一町長(左)に医療マップを寄贈した小樽商大の学生たち。右は佐々木香織准教授

作製した英語の医療マップを約100部ずつ寄贈した。

マップはスキー場や各医療機関・薬局が記載されているほか、受診方法や薬の分類などを詳述。折りたためばB6判の冊子としても利用できる。

学生たちは昨年9月から現地を調査。外国人は受診に至るまでの経緯など日本独自の医療システムへの理解が十分でないことが分かり、病気やけがに自ら対応できるマップを作った。

学生は倶知安町役場で調査結果やマップの概要などを説明。西江栄一町長は「外国人観光客にとって大変役立つと思う」と話す。4年生の藤矢晴輝さん(21)は「これを使って円滑に医療を受けられるようになれば」と期待を込めた。

3千部作製され、スキー場や宿泊施設、医療機関にも置かれる。(平田博治)